

2023ピースアクション inTOKYOアピール

8月の暑い朝、原子爆弾の投下により街は一瞬にして破壊され、多くの人々のかけがえのない命や人生、日常が奪われました。

被爆者の平均年齢は84歳を超え、78年の時が過ぎてもなお、あの惨禍の事実と歴史を消し去ることはできません。

被爆者が核兵器の廃絶を願うのは、「こんな思いを他の誰にもさせてはならない」という平和への強い思いと、いまだに続くロシアによるウクライナ侵攻により、「核の脅威」が高まっているなかで、世界のどこかで日々のくらしが脅かされ、平和の原点が大きく揺らいでいるのではないかという、不安と怒りの表れに他なりません。

私たちは平和の大切さを未来へ語り継いでいくため、今日ここに集いました。

2021年に発効した「核兵器禁止条約」は、92の国と地域が署名し、68の国と地域が批准を終え、昨年6月には、ウィーンで締約国会議が開催されました。しかし核保有国と日本を含む「核の傘」のもとにある国は、いまだ条約に参加していません。

唯一の戦争被爆国である日本が「核保有国と非核保有国の橋渡し役」として、核兵器廃絶に向けた議論に責任をもって参画する必要があることを、私たちはこれまでも再三発信してきました。来月に広島で開催される G7 サミットでは、各国の首脳が被爆の実相を踏まえ、平和への思いを共有し、核兵器のない世界の実現に向けた現実的で実践的な取り組みをすすめるための貴重な機会になることが求められます。

そして、私たち一人ひとりも、平和を願うすべての人々たちと手を携えて、原爆を経験した国として実相を伝え、争いのない平和な世界の実現と核兵器のない未来を次世代に手渡すために、さらに行動を広げていかななくてはなりません。

世界中の市民と力を合わせて、核兵器廃絶への道を一步ずつ進んでいくことを確認し、このメッセージを被爆国の首都、東京から発信します。

2023年4月16日

一般社団法人東友会(東京都原爆被害者協議会)
特定非営利活動法人 東京都地域婦人団体連盟
東京都生活協同組合連合会 平和活動連絡会